

ふん か たい けん み らい
噴火体験を未来につなげる

うん ぜん か ざん
雲仙火山と
わたしたち



もくじ 目次

はじめに 2

しまばらはんとう うんぜん ふ げんだけ 島原半島と雲仙普賢岳

うんぜん かざん しまばらはんとう
「雲仙火山」は島原半島のシンボル 3

● 山や町の様子を見比べてみよう 4

● 様々な噴火現象と災害 5

うんぜん ふ げんだけ なに お 雲仙普賢岳で何が起こったのか

1 溶岩ドームがあらわれた 7

2 火砕流が起きた 8

3 火山灰が降る 9

4 土石流が続く 10

5 喜らしが激変した 11

うんぜん かざん 「雲仙火山」タイムトラベル

ふんか れきし みらい
噴火の歴史と未来 13

● 雲仙普賢岳の噴火と災害 13

● 雲仙普賢岳はまた噴火するの? 14

かざん 火山のめぐみ

うんぜん かざん もの
「雲仙火山」からのおくり物 15

うんぜん ふ げんだけ しら 雲仙普賢岳を調べよう

1 マグマを取り出そう 17

2 束状の火道を発見 18

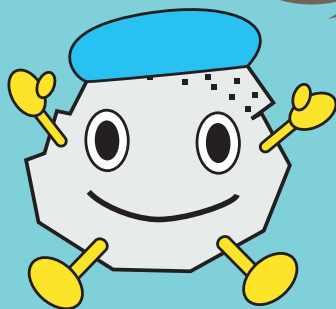
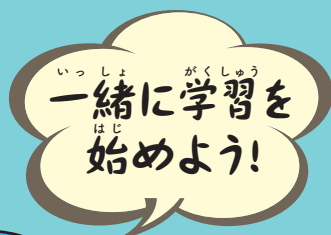
あんしん く ゆた まち 安心して喜らせる、豊かな町に

ぼうさい ぶつこう
防災と復興 19

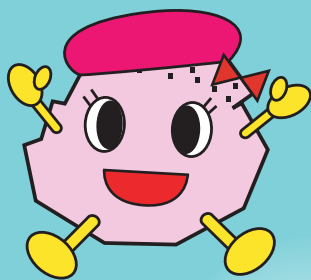
かざん ぼうさい がくしゅう 火山や防災について学習しよう

1 がまだすドームに行こう! 20

2 がまだすドームをもっと
活用するには 22



がんとくん



めぐみちゃん

本書はコピーして使用してかまいません。
がまだすドームのホームページからも
ダウンロードできます。
<http://www.udmh.or.jp>

はじめに

1990年(平成2年)11月17日、雲仙普賢岳が198年ぶりに噴火を始めました。噴火はその後、約5年間にわたって続き、44人の命を奪い、約1400戸もの家を壊しました。また、多くの方が、長い避難生活を送らなければなりませんでした。

この本は、雲仙普賢岳の噴火が起こした災害をみなさんに伝えるために作られました。私たちは、家族や友だちの絆、地域の人たちとの助け合いが将来の災害から町を守るためにとても大切であることも学びました。災害を通じて火山について、地球について、そして自然とともに生きる人間の暮らしについて学んでもらいたいと思っています。

この本で学んだことをみなさんが、さらに多くの人に伝えていってくれること、そして、自然を正しく知った上で、強く生きていってくれることを心から願っています。



うん ぜん か ざん
「雲仙火山」は
しま ばら はん とう
島原半島の
シンボル

じょうせつ
常設
てん
展示



へいせいふんか
「平成噴火ジオラママッピング」を
み
見てみよう

とうざいやく なんぼくやく おお しまばらはんとう はんとう ちゅうおう うんぜん
東西約24km、南北約32kmの大きさをもつ島原半島。この半島の中央には、雲仙
かざん
火山がそびえています。その主峰が普賢岳です。

うんぜん かざん と ま し ぜん す ひとひと く れきし みらい のこ きちよう
雲仙火山を取り巻く自然とそこに住む人々の暮らし、歴史は未来に残すべき貴重な
いざん せかい にんてい
遺産として、ユネスコ世界ジオパークにも認定されています。



やま

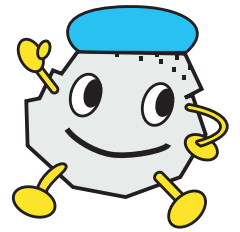
や

まち

の様子を見比べてみよう

1990年(平成2年)11月17日、雲仙普賢岳
 は198年ぶりに噴火を始めました。
 そして、この時から、様々な災害を起こし
 続けてきたのです。

話し合おう
 ちがう年にさつえい
 された写真だよ。どこが
 どんなふう
 にちがうかな？



1990年
8月

みなさんが生まれる前にさつえいされた写真です。
 緑豊かな山のふもとに、町が広がっています。この頃の山の高さは1359mです。



1993年
10月

噴火が始まって約3年後の写真です。噴火前の写真と比べると、山頂近くが
 大きく盛り上がってきているのがわかりますか？町の様子はどうでしょう？



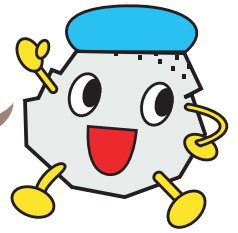
2003年
2月

噴火が治まってからの写真です。山の高さは1483mです。
 町の様子も変わっていますよ。

様々な

噴火現象と災害

火山が噴火すると
どんなことが
起こるんだろう。
見てみよう。



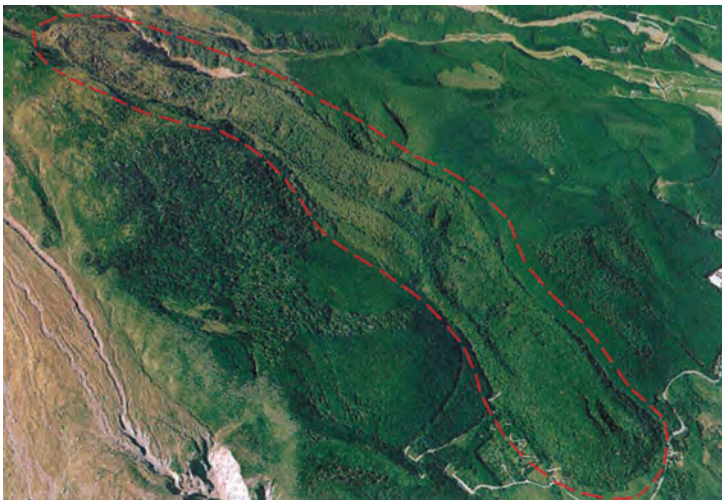
火山灰・火山礫・噴石

火山が噴火ではき出す粉のように細かいもの
のことを、**火山灰**と言います。火山灰
によって人が死ぬことはあまりありま
せんが、空や陸の交通をさまたげたり、
畑の作物が育たなくなったりして、生
活に大きな影響を与えます。

また、噴火では、火山灰よりも大きな粒
の**火山礫**や、もっと大きな**噴石**もふき出
します。噴石は、家の屋根をつきやぶる
こともあります。



降りつもった火山灰が、風で舞い上がる島原市内



溶岩流

マグマが地表に出てきたものを、**溶岩**
と言います。この溶岩が山を流れくだる現
象を**溶岩流**と言います。

流れ始めの溶岩流は1000度前後もあり、
家などを焼きつくします。

◀ 山頂付近から約2km流れくだった溶岩流。
1792年噴火、左上わきでたところ。
右上が流れの止まったところ。

火砕流

噴火現象の中でもっとも恐ろしいもの
の一つで、溶岩の破片や火山灰が、火山ガ
スと一緒に、ものすごいスピードで山を
流れくだる現象を**火砕流**と言います。

時速100kmを超えることもあり、車
で逃げても追いつかれてしまうほどの速さ
です。

また、温度は数百度にもなることがあり、
家や自動車なども燃えてしまいます。



ふもとの町におそいかかる雲仙普賢岳の火砕流。1992年9月27日

山体崩壊 (山崩れ)

地震や大雨、火山の噴火などによって、山の地面が大きく崩れ落ちることを**山体崩壊**と言います。ふもとの町を埋めてしまうこともあり、大災害となります。

1792年には眉山で、大きな山崩れが起きました
(島原大変肥後迷惑) ▶



火山ガス

1990年に噴火が始まった雲仙普賢岳では、火山灰や**火山ガス**のために、木々が枯れてしまいました。

◀山頂付近の立ち枯れた木々 (後方は屏風岩)



土石流

雨などが引き金になって、山の岩石や土砂が水とともに時速50~60kmの速さで流れくだる現象を**土石流**と言います。火山だけに起こる現象ではありませんが、火山の場合は斜面に火山灰などがたくさんつまっているので、大きな被害を出すことが多いのです。土石流は、噴火が終わったあとも長い間続いて、人々を苦しめます。



山から流れくだった土石流が家や畑をおそいました



雲仙普賢岳で起きた土石流による被害

◆雲仙普賢岳で何が起きたのか?①

溶岩ドームがあらわれた

常設展示



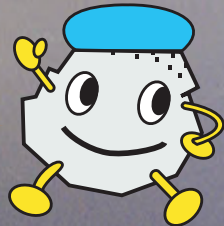
1990年(平成2年)、雲仙普賢岳が198年ぶりに噴火しました。初めのうちは、喜ぶ人もいました。

火をふき、煙を上げる火山を見ようと、全国から観光客がやって来ると思ったからです。しかし、そのうち不安になってきました。

ふき出したマグマが溶岩ドームを作り、それが大きくなり始めたのです。



溶岩の温度は何度だろう?



雲仙普賢岳の山頂近くに盛り上がった溶岩ドームは、噴火後の1996年に「平成新山」という名前が付けられました

がまだおドーム 三辞典

溶岩ドーム

噴火でふき出るマグマが、おもちのようにねばりけが強い場合は、溶岩流となって流れくたらず、火口の上で盛り上がってかたまります。これを溶岩ドームと言います。



溶岩ドームはどんどん大きくなりました

◆ 雲仙普賢岳で何が起きたのか? ②

火砕流が起きた

常設
展示



「火砕流とは」をみてみよう

心配していたことが、起こりました。

溶岩ドームが、火口から湧き出るマグマに押されて
崩れ、火砕流が発生するようになったのです。

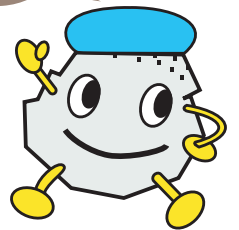
そして、1991年（平成3年）6月3日、とうとう大火
砕流が発生しました。ものすごいスピードで山をく
だった火砕流は、一度に43人の命を奪いました。

その後、1993年（平成5年）6月23日の火砕流によって、さらに1人が亡くなりました。
5年間に起こった火砕流は9400回あまり。

44人の命と多くの家を奪って、雲仙普賢岳の噴火はやっと終わったのです。



火砕流の
速さは、どの
くらいかな？



普賢岳で起きた火砕流。その後6月3日に火山の様子を
取材していたマスコミの人や消防団の人など、43人が亡
くなりました



被災前の旧大野木場小学校
(宇井忠英氏撮影)



被災後の旧大野木場小学校
(宇井忠英氏撮影)



教室の中にあつた机や椅子も燃えて
しまいました(1992年9月撮影)

◆雲仙普賢岳で何が起きたのか?③

火山灰が降る

かつて島原半島は、緑豊かなところでした。
しかし、雲仙普賢岳の噴火が始まると、火山灰が
毎日のように降り続き、町も田畑も灰色になって
しまいました。
粉のように細かな灰が、人々の暮らしに大きな被
害を与えたのです。

考えてみよう

火山灰が降ると、どんな
ことが困るのだろう。
生活の色々な場面を
想像して、考えてごらん。



火山灰の舞う住宅地 (1991年5月4日 岩永時直撮影)

目を開けていられないほどの火山灰

「灰がひどくふったりする場合は、マスクとメガネをして行きます。息をするのでメガネがくもってしまいます。マスクが三角の形で鼻にあわないので、すきまからメガネに息がきて、前が見えなくなります。前が見えないので手やハンカチでこすると、灰のとんがっているところでキズになるので、いっそうメガネがキズだらけになります。」(4年生)



降灰の中通学する生徒

◆ 雲仙普賢岳で何が起きたのか? ④

ど せき りゅう つづ 土石流が続く

雲仙普賢岳では、雨が降るたびに土石流が発生し、家を壊し、道路や田畑を石と泥の海にしてしまいました。一度に579戸の建物を埋めてしまった、大きな土石流もありました。そして、土石流の危険は、今も続いているのです。



土石流によって、美しいふるさとの風景はまったく変わってしまいました



たくさんの家が土石流に埋もれてしまいました



1991年から2000年の間に、60回以上の土石流が起きました

◆雲仙普賢岳で何が起きたのか?⑤

暮らしが激変した

常設展示

雲仙普賢岳の噴火は、島原半島に住む人々の暮らしを突然大きく変えました。噴火前とはまったく違う、つらく不自由な生活が待っていたのです。長い人では5年以上も、避難生活が続きました。



「火山との共生」をしてみよう

住む家がなくなった

火砕流や土石流で、約1400戸の家が焼けたり、壊れたりしました。住むところを無くした人や、災害の危険がある場所に住む人たちは、避難所や、仮設住宅などに住むようになりました。しかし、そこでの暮らしは、不自由なことがたくさんありました。



火砕流や土石流で、たくさんの人が家を失いました



学校の体育館などが、避難所になりました。どこの避難所も人がいっぱい、ゆっくり眠ることもできません。でも長い人で7か月も、避難所での暮らしが続いたのです



仮設住宅。一つの家族が一つの家に一緒に住めるように、建てられました

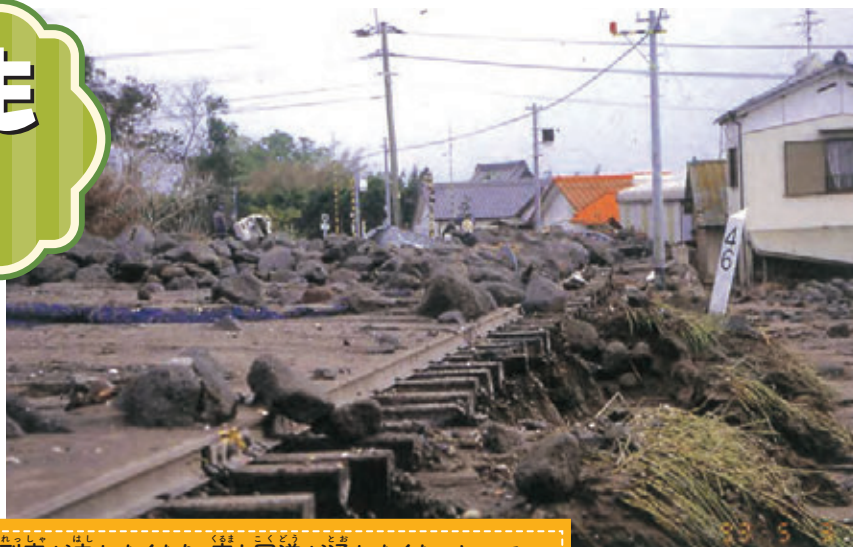


仮設の学校も建てられました

てつ どう こく どう 鉄道も国道も 止まった



電柱が折れ、電気が一時止まったこともありました



列車が走れなくなり、車も国道が通れなくなったので、仕事に行く人や学校に行く人たちがとても困りました

電気や水道、ガスが一時止まり、生活に大きな影響が出ました。島原鉄道も線路が土石流で流されたり、壊されたりして、列車が走れなくなりました。国道も長い間、通行止めになり、島原半島の交通が大変不便になりました。

し ごと 仕事ができなくなった



多くの田畑が火砕流や土石流で埋まったほか、火山灰が降ったために作物が育たなくなった田畑もたくさんありました

仕事場や田畑を火砕流や土石流で失った人たちなど、多くの方が、仕事ができなくなりました。また、噴火の被害を直接受けられない場所に住む人たちも、色々な影響を受けました。

たとえば、旅館やみやげもの店などを営んでいる人たちは、観光客が来なくなって、とても困りました。漁師さんも、土石流で海が汚れて、魚がとれない日が続きました。

がまだおどーム 三二辞典

被害のまとめ

- ・亡くなった人 …………… 44人
- ・けがをした人 …………… 12人
- ・壊れた家 …………… 1399戸
(家以外の建物の被害は1112戸)
- ・国道57号が通れなかった日 …… 817日
- ・国道251号が通れなかった日 …… 196日
- ・島原鉄道が動かなかった日 …… 1698日

◆「雲仙火山」タイムトラベル

ふん か れき し み らい 噴火の歴史と未来

常設
展示

雲仙普賢岳は、昔から何度も噴火をくり返してきた火山です。

噴火や災害の歴史を学んだら、未来はどうかのかも考えてみましょう。



うん ぜん ふ げん だけ 雲仙普賢岳の ふん か さい がい 噴火と災害

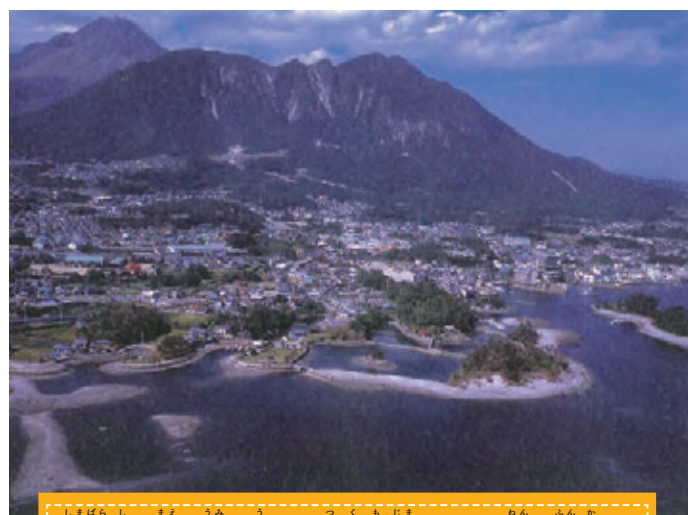
江戸時代の1663年に始まった噴火では、雲仙普賢岳から溶岩流が流れくたびりました。また、次の年には土石流が起きて、30人以上の死者を出し、多くの家が流されました。1792年の噴火では、眉山が強い地震とともに山崩れを起こしました。崩れ落ちた岩石や土砂は島原の町を埋め、さらに有明海に流れ込んで、大津波を引き起こしました。この山崩れと津波によって、島原と肥後（現在の熊本県）を合わせて約1万5000人が亡くなりました。そのため、この災害は、「島原大變肥後迷惑」とも言われています。

年	災害の様子
1663年～ 1664年 (寛文3～4年)	噴火。土石流で、死者30人以上。
1792年 (寛政4年)	噴火。地震によって眉山が山体崩壊を起こし、津波が発生。死者約1万5000人。日本の火山災害の中で、もっとも多い死者を出した。
1990年～ 1995年 (平成2～7年)	噴火。火砕流で死者44人。2511戸の建物に被害。

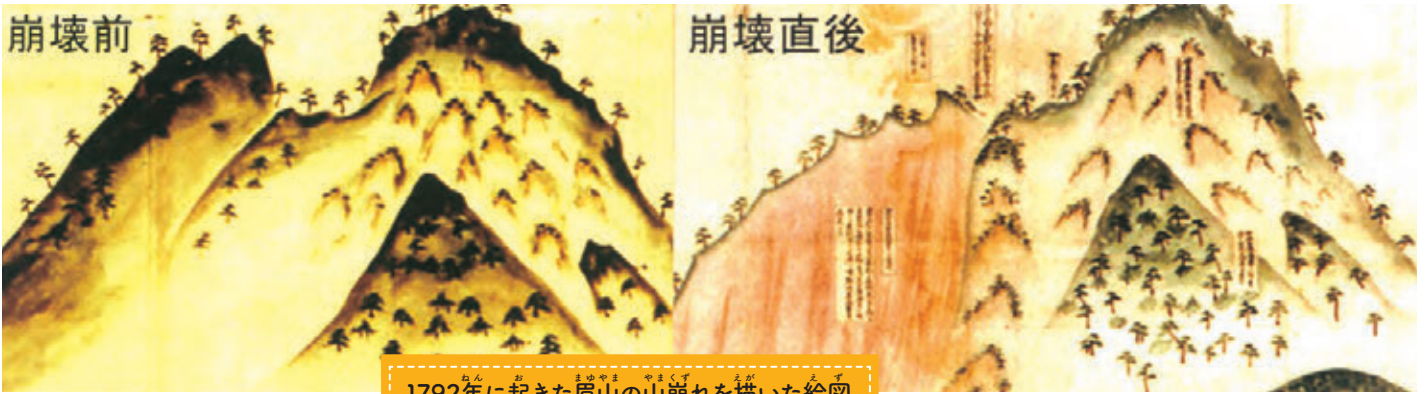
がまだおドーム三辞典

噴火の前に、半島の西で 地震が起こっていた

1792年と1990～1995年の雲仙普賢岳の噴火では、どちらも噴火より前に島原半島の西で地震が起きています。その後、地震は雲仙普賢岳の下で起こるようになり、噴火が始まりました。



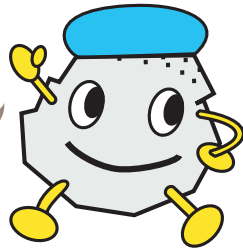
島原市の前の海に浮かぶ九十九島は、1792年の噴火で眉山が崩れ、その土砂が海に流れ込んで生まれました



1792年に起きた眉山の山崩れを描いた絵図
(島原市松平文庫所蔵)

雲仙普賢岳は また噴火するの？

おおつなみ うみ
大津波が、海を
こえた向かい
側の海岸を襲っ
たんだよ。



雲仙普賢岳は、活火山です。
そのため、この先も、必ず噴火すると
考えられています。でも、それが「いつ」
なのかを予想することはできません。
もしかしたら、みなさんが生きて
いる間にも、次の噴火があるかもしれ
ないのです。
正しく火山のことを知って、次の噴火
に備えて、いろいろな準備をしておき
ましょう。



今の雲仙普賢岳の様子

「雲仙火山」 からのおくり物

常設展示



火山は噴火を起こして人間を苦しめることもありますが、人間の暮らしに役立つ「おくり物」もたくさんしてくれています。
火山からのおくり物には、どんなものがあるのでしょうか。

美しい景色

火山は噴火のたびに溶岩や火山灰をふき出して、雄大な形に成長していきます。また、すそ野に広がる森や湖などの景色も、火山の噴火によって生まれたものです。日本には34の国立公園がありますが、そのうち17の国立公園に火山があることから、火山が美しい景色を作っていることがわかります。雲仙普賢岳も、雲仙天草国立公園の中にあります。(雲仙火山は1934年(昭和9年)全国で指定第1号(他2ヶ所))



島原半島には、火山が作る美しい景色がたくさんあります

温泉

地下水がマグマなどの熱で温められたものが温泉です。温泉は、体が温まって気持ちよだけでなく、体によい成分も含まれているので、昔から多くの人々に利用されてきました。

雲仙普賢岳のまわりには、島原温泉や雲仙温泉、小浜温泉などの温泉地があり、多くの観光客が訪れています。



白い蒸気が立ちのぼる雲仙地獄

地下水・湧水

火山のまわりは、おいしい水にめぐまれています。火山の表面は、噴火でふき出た岩石や火山灰におおわれているので、雨が降るとスポンジのように吸い込んでしまいます。そして、何十年も時間をかけて何層もの地層を通りながら、きれいな水になって、固い地層の上を流れるようになります。

この水が、地下水です。島原半島では、水道の水も、地下水をくみ上げて使っています。また、地下水が谷間や、がけの間などから湧き出しているものは湧水と呼ばれています。雲仙普賢岳のふもとにもたくさん湧水があり、島原市だけでも30か所以上あります。島原湧水群は、環境庁（現環境省）の「名水百選」にも選ばれています。



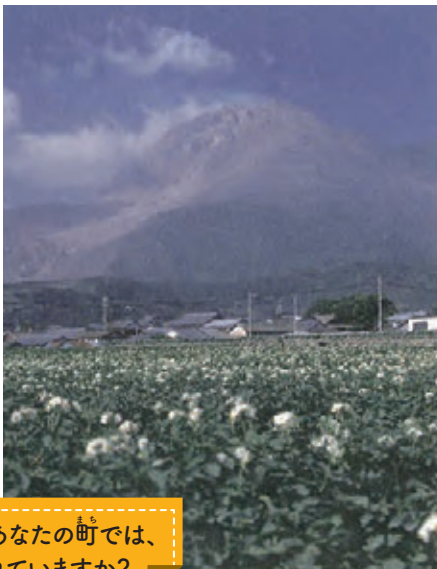
浜の川湧水（島原市）。毎日の生活の中で使われています



島原市は、湧水の数が多く、「水の都」とも言われています

野菜作りに適した土

火山灰が降り積もった土は、水はけがよいことなどから、火山のまわりの土は大根や白菜、じゃがいもなどの野菜や、スイカやメロンなどの果物を作るのに向いています。島原半島でも、おいしい野菜や果物がたくさん作られています。



ジャガイモ畑です。あなたの町では、どんな作物が作られていますか？

地熱エネルギー

マグマの熱を利用して電気を作る地熱発電所が注目されています。また小浜の源泉では温泉熱を利用して、廃食用油（植物油）からバイオディーゼル燃料を作る実験が進められています。自然の力を利用したエネルギーとして、これからもっと注目されていくでしょう。



余熱利用型バイオディーゼル燃料装置

マグマを取り出そう

常設展示



「雲仙科学掘削」を見てみよう

雲仙普賢岳の地下にあるマグマはどのようになっているのでしょうか？

この疑問を解明するため、噴火後間もない火山の地下からマグマを採取するという世界初めてのプロジェクトが2002年から2005年にかけて実施されました。(雲仙火道掘削プロジェクト)

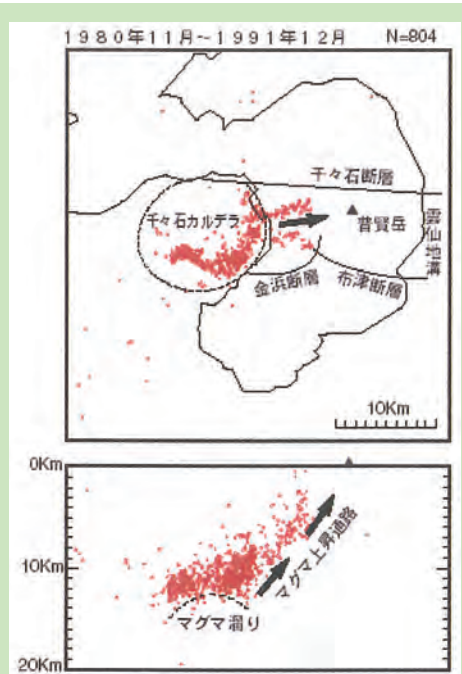
地震や地殻変動の観測により普賢岳のマグマは橘湾の深さ15kmの地点のマグマ溜まりから約45度の角度で東向きに上昇してきたことがわかっています。

そこで、平成新山溶岩ドームの北西側から斜めにボーリング孔を掘り、地下のマグマを直接採取することになりました。



鉄管の先端に装着された掘削用刃先(トリコンビット)

ボーリング鉄管の先端に取り付けられた掘削用刃先(トリコンビット)。1000m地下の岩石を掘削します。



平成噴火の時に観測された地震の分布図。橘湾の地下からマグマが斜めに上昇していく様子がわかります。

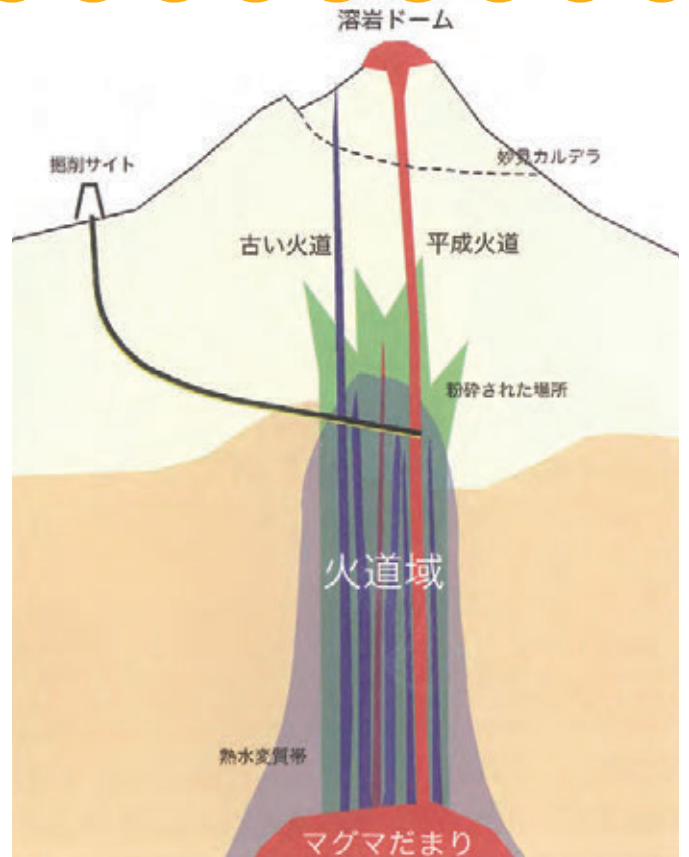
平成新山の北西山麓の標高850m地点に建てられた火道掘削用やぐら。高さは約50mもあります。

◆雲仙普賢岳を調べよう②

束状の火道を発見

最終的に山体内部を約2km掘削し、溶岩ドーム直下約1,500mのコア（岩石の円柱）を掘り出しました。このコアは1990-95年噴火で出た溶岩と化学組成はほぼ一致しており、高温で変質が少なく新鮮であったことから、火道（マグマの通り道）に到達したと考えられます。

今回の科学掘削では、溶岩ドームの下には、今回の噴火の火道のほかに、過去の噴火で使われた多数の火道が束状になった「火道域」が存在することが明らかになりました。また、普賢岳周辺に豊富に存在する地下水で冷やされるために、火道の温度は予想された以上に低い（約200℃）ことがわかりました。



火道域は強い熱水変質を受けた角礫岩からなり、新旧の火道が束になっているとされます。



火道域から採取されたコア。平成噴火の溶岩と同じ成分の岩石脈も含まれています。

マグマの圧力でできた割れ目に火山ガスとマグマ片が密に詰まった火砕岩脈



防災と復興



「土石流への備え」をしてみよう

雲仙普賢岳の噴火災害によって災害の恐ろしさや生命の大切さなどたくさんのことを学びました。

そして、島原半島の人々は、「防災」と「復興」の仕事

によって災害から守られています。今では、山に緑が戻り、町並みが復興してきました。

土石流への備えとして、山や川の周囲に砂防堰堤や導流堤ができました。川が氾濫して、人が生活する場所や田畑に流れ込まないように、守るしくみが作られたのです。

しかし、町を守る対策はこれで終わりではありません。今後も雲仙火山の噴火や土石流などに備えてしっかりと見守り続けていく必要があります。



普賢岳

平成新山

平成新山ネイチャーセンター

眉山

大野木場砂防みらい館
旧大野木場小学校

水無川上流砂防堰堤群

安中三角地帯
町の人が安全に住めるように、地面の上に6mも土を盛り上げて町づくりがされました。

土石流被災家屋保存公園

水無川

道の駅 みずなし本陣ふかえ

がまだすロード

われん川

導流堤

がまだすドーム
(雲仙岳災害記念館)

島原復興アリーナ

写真の薄い茶色の部分は、場所や建物などをわかりやすくするために実際とは色を変えています。

がまだすドームに行こう!

1990年11月に始まった平成噴火。1996年の噴火終息宣言まで、この地で何が起き、そして、何が残ったのか。自然のきょういと、災害の教訓を風化させることなく正確に後世に残します。

大迫力のドーム型スクリーンで火砕流・土石流の体験映像をまとめた「平成大噴火シアター」

や最新の技術により当時の噴火を再現させる「平成噴火ジオラママッピング」をはじめ、火山や防災について9つのゾーンに分けて展示をしています。

見て触れてリアルに体感しながら、わかりやすく学習できる「ジオと火山の体験ミュージアム」です。



がまだすドーム
(雲仙岳災害記念館)

〒855-0879

長崎県島原市平成町1-1

TEL 0957-65-5555

FAX 0957-65-5550

<http://www.udmh.or.jp>

火砕流の道

火砕流が時速100kmで流れ下る映像とガラス張りの床を光が駆け抜ける演出により、火砕流の猛威とスピードを体験できます。



常設展示

平成ジオラママッピング

リアルなCG映像を普賢岳のジオラマに投影するプロジェクションマッピングの手法により、1990年(平成2年)に始まる一連の噴火の様子を再現します。



常設展示

平成大噴火シアター

大迫力のスクリーンに映し出される火砕流や土石流の映像により、噴火災害を体全体で感じられるシアターです。人と火山との関わりや共存していく姿を再現しています。(定員約95名、上映時間約17分/定刻制)



常設展示

雲仙岳スカイウォーク

雲仙岳周辺を、ドローンで撮影。平成新山で見られる溶岩ドームの独特の景観や火砕流で被災した旧大野木小学校など、ここでしか見られない上空からの映像を、空中散歩するような感覚で見ることができます。



島原大変劇場

寛政4年(1792年)いわゆる「島原大変肥後迷惑」を歌舞伎の手法を取り入れ、立体紙芝居風に紹介します。(定員約80名、上映時間約13分/定刻制)



焼き尽くされた風景

焼けこけた電柱や電話ボックスなど、実際に火砕流で被災した実物資料を展示しています。

平成噴火噴出物の はぎ取り標本

平成噴火噴出物による堆積層をはぎ取り標本として紹介しています。この標本の堆積物断面により、1990年の噴火開始から終息するまでの平成噴火の様子を見ることができます。日本に3つしかない貴重な資料です。

常設展示

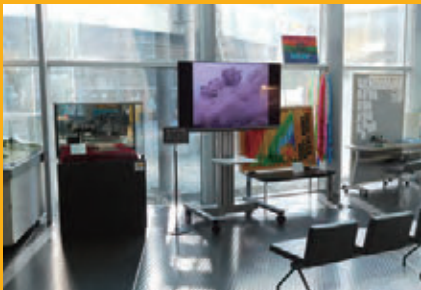
島原半島世界ジオパーク 情報スペース

島原半島ジオパークの魅力を紹介するプロモーション映像の上映や、各ジオサイト並びにお勧めモデルコースの紹介などジオパークに関する情報が満載です。



雲仙・大火砕流378秒の遺言

1991年6月3日の大火砕流で犠牲になったカメラマンの被災カメラを展示し、そのカメラに残された実写映像(撮影時間378秒)を基に編集したドキュメンタリーを放送します。(上映時間約6分随時上映)



◆ワンダーラボ(2F)

火山、科学、防災に関する実験や、手軽に自然、科学の魅力にふれるワークショップの体験ができます。定期的にメニューを更新し、ここでしかできない体験から様々な学び・発見が得られます。



◆こどもジオパーク(1F)

雲仙普賢岳、島原半島、火山をモチーフにした楽しく学べる「ジオマウンテン」、身体を使って遊べる「地層探検アスレチック・ボールプール」の遊具など、体を使う遊びを通して身近な自然や火山に親しむ体験ができます。



◆カフェ&ショップ

島原の大地の恵みを感じられるカフェ&ショップです。地元食材にこだわったメニューや島原・雲仙土産の定番「湯せんぺい」や「かんざらし」からここならではのオリジナル商品まで幅広く揃っています。



がまだすドームを もっと活用するには

がまだすドームでは、火山や防災に関する各種イベントの開催や記念館の展示物等を活用した防災・理科教育プログラムを実施しています。また、語り部ボランティアによる災害の伝承活動等、幅広く防災教育を行っています。



フィールドワーク(被災地見学)

当館に登録されている語り部ボランティアによる被災地見学ができます。
(常設展示入場者限定、事前予約制/無料)

ワンダーラボ教育プログラム

雲仙岳周辺の自然や噴火災害の経験を活かしたここだけの体験プログラムを実践します。
身近な材料を使って、火山現象や自然現象に関する実験・ワークショップを行い楽しく学習します。
(事前予約制/有料)



語り部ボランティアによる講話

語り部ボランティアによる被災体験のお話を聞くことができます。
(常設展示入場者限定、事前予約制/無料)

発行

がまだすドーム (雲仙岳災害記念館)

〒855-0879 長崎県島原市平成町1-1

TEL0957 (65) 5555

学校

年

組

名前